

三木繭美

異邦人

西日射す 部屋の片隅
黄色い詩集を
開いていた

ぬくもりをもって
その町は 蜃気楼のように
たちあがった
人 ひと が
歩きだす
風をまとって

照らされた道
蝶が飛んでいく
この町で わたしは
すれ違ったかもしれない
白い聖人と